

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

国際教育コース／近森 憲助

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

①授業主題や内容に関する成書の記述をただ単に伝えるのではなく、国際教育開発及び国際理解教育に関する研究成果及びユネスコスクールにおける実践や本学教員教育国際協力センターが実施しているフォーラムなどの成果を踏まえながら授業内容を構成する。さらに、知識提供ではなく、知識を生成するための学術研究及び実践研究の方法論やレポート・論文作成などの成果を取りまとめ、形にするための技法を授業内容と関連させながら教授する。  
②論文購読、データ解析、レポート作成などを介して体験的に知識創成のための方法論を体得させる。  
③各授業ごとに質問票を作成するよう指示し、質問票の内容、授業の最後に実施する質問票の内容を踏まえた総括討論のためのセッションにおける発言内容及び授業総括レポートの内容により評価する。そのバランスは、質問票の内容(20%)、総括討論における発言(20%)、レポートの内容(60%)とする。

#### 2. 点検・評価

①中間報告と同様である。  
②国際理解教育特論Ⅰでは、中間報告②で示したように、論文購読を中心に論文作成技法について解説した。後期の国際理解教育特論Ⅱでは、日本語及び英語の論文を読むとともに内容を、英語により発表させることとした。論文を読み、発表内容をまとめることを通して、体験的な知の獲得に関する方法論が習得され、さらに、日本人学生にとっては、英語を読むことと話す機会が提供された。  
③国際理解教育特論Ⅱにおいても、振り返りレポートを毎時間課し、さらに授業課題に関する英文レポートの提出をもとめ、授業におけるディスカッションや成績評価に活用した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ・顧問教員として課外活動団体である鳴門教育大学総合学習研究会(ふれあいアクティビティ)の活動の指導・助言にあたる。
- ・従来からオフィスアワーの時間帯を設定していないが、これまでと同様随時学生の修学上の相談に応じる。
- ・論文作成法に関する指導を授業及び課題研究を通して、強力に推進する。

#### 2. 点検・評価

- ・いずれも年度目標を踏まえて実施した。課外活動団体の活動については、5月の鳴門市小学校校長会における活動支援のお願いや参加小学生の募集に関する通知文書のチェック、事前説明会でのあいさつ、及び活動費の補助等を行った。JICA長期研修生をはじめとして、修士課程2年次の学生あるいは留学生に対して、スケジュールを調整した上で修学上の様々な相談に応じた。論文作成法に関する指導については、国際理解教育特論のⅠの授業を中心として、また課題研究を通して論文作成について指導助言を行った。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ・授業研究での授業検討会での協議内容の解析に関する論文を共著で発表する。
- ・教師の支援に関する研究を学内教員及び大学院修了生と共同で国際研究集会において発表する。
- ・2008年から実施しているザンビア農村部におけるコミュニティスクールに関する調査・研究を徳島県内の国際協力NPOと連携して実施する。

#### 2. 点検・評価

- ・中間報告と同様である。さらに、長期研修生及び国際教育コース教員1名との共著で、ルアンダの前期中等理科教育カリキュラムの学校現場における実施状況についての論文がAfrican Journal of Reasearch in Mathematics, Science and Technology Education誌に受理された。同誌第18巻(2014)に掲載された(DOI.10.10801/10288457.2014.884350)
- ・共同発表の内容も含めて後期には、支援に関する人間学的考察と題する講義を4回にわたり現代教育人間論の授業(大学院後期)において行った。さらに、この内容を中心とした論文原稿を作成し、現在来年度の本学紀要への掲載に向けて共同執筆者との協議を重ねながら推敲を重ねているところである。
- ・本年11月にザンビアに渡航し、研究調査対象地域の研究校3校の教員に対するワークショップ等を実施した。3月初旬には、このワークショップの成果を生かして授業実践及び観察などを行った。現地教育関係者、連携先NGOザンビア駐在員などとの協議及び授業観察等の成果を踏まえ、来年度の本格的な調査研究に向けての最終成果物の章立て、及び研究終了までの2年間の調査研究に関する工程表原案を作成した。3月26日に連携先NGOの担当者に両者について説明し、基本的に了承された。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ・国際交流担当副学長として、本学の国際活動に関する日常業務にあたる(国際交流委員会委員長等)。
- ・国際教育カリキュラムの評価を教員教育国際協力センター所属教員とともに実施する。
- ・平成25年度日本/ユネスコパートナーシップ事業を推進する(ユネスコスクール加盟促進、実態調査、研修会の開催など)。

### 2. 点検・評価

- ・中間報告に記載した通りである。なお、国際教育カリキュラムの評価については、教員教育国際協力センターの教員とともに2月中には評価報告書を作成し、3月11日に外部評価を受けた。
- ・新居浜市の小中学校26校の加盟申請を支援した(学内教員3名と共同で小学校の申請書及び学校概要の英語の翻訳を担当)。平成25年度末までに予定していた26校すべての申請が完了した旨の報告を新居浜市教育委員会担当者より受けている。徳島県の佐那河内小学校の加盟申請を支援した(申請済み)。
- ・平成25年8月に高知市で開催されたユネスコスクールフォーラムにおいて、持続可能な開発のための教育(ESD)について基本的な理解を促すための話題提供(ESDとは何か)を行った。また同様の趣旨の講演を新居浜南高等学校(愛媛県新居浜市)の教員に対して行った(平成26年12月)(教育アドバイザー制度による派遣)。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ・学校・家庭・地域の連携による子どもの健全育成推進協議会、徳島県環境審議会、学校版環境ISO事業運営委員会など徳島県の環境及び教育に関する委員会において委員として出席し、事業運営等について学識経験者としての意見を述べる。
- ・受託研修、本学教員の国外派遣等についてJICAをはじめとする関係機関との連絡調整にあたる。
- ・本年度実施が予定されている受託研修にコースリーダーとして参画する。
- ・付属小・中学校からの要請に応じて同校の教育に寄与したい。

### 2. 点検・評価

- ・徳島県関係の委員については中間報告に示した通りである。適宜、依頼に応じて会議に出席した。
- ・JICAよりの研修受託のほかJICA関連事業(JDS事業への応募、長期研修生、研究生の受け入れ等)に関し、教員教育国際協力センター及び
- ・国際教育コース教員と連携してJICA四国との連絡調整に当たった。2月24日～28日にはアフガン研修が実施され、コースリーダーの一人として学内教員一名(小野由美子教授)と共同して研修の企画・実施にあたる予定である。
- ・中間報告に示した通り、平成25年11月13日に「吉野川とゴミ」をテーマにした環境学習を付属中学校1年生全員を対象に実施した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特になし